

平成30年度 山形県ジェネリック医薬品安心使用促進協議会 議事録

日時:平成30年7月23日(月) 午後3時～4時30分

場所:山形県庁 1002 会議室

当協議会設置要綱第6条の規定に基づき、会長が議長となり議事を進行。

1 報告

(1) ジェネリック医薬品の使用状況について

(2) ジェネリック医薬品の使用促進について

(3) 平成29年度ジェネリック医薬品安心使用促進事業について

事務局	(次第 4 報告 (1)～(3)に基づき、一括説明)
議長	【以下、(2)全国健康保険協会 山形支部さん提供の資料より】 Q.置賜の院外処方ではジェネリックの使用割合が低いのは理由があるのか。
本間委員 (県保険者協議会)	A.在庫の関係があるのかは、個別のデータがあるので、分析をしていきたい。
東海林委員 (県薬剤師会)	Q.ジェネリックは加算が取れるのに、使用割合が上がってこないのはなぜか。
大石委員 (県薬事工業協会)	A.若年層の使用割合が低いため。理由としては、医療費の無料化が関係している。 ジェネリックに対する不信感がある。国や業界のPRが重要である。
議長	Q.今でも湿布薬、軟膏薬、アレルギー用薬は先発品が強いのか。
大石委員 (県薬事工業協会)	A.全てが先発品の方がいいかとなると、そうではない。張りやすさ、剥がしやすさなど、先発品の技術には勝てないところはある。
大石委員 (県薬事工業協会)	(ジェネリック医薬品使用割合(年齢階級別)表について) Q 小児の無償化のところで使用割合が低いのはなぜか。
事務局	A.安い薬を選ぶ理由がなく、先発品を使いたいのだと思う。
東海林委員 (県薬剤師会)	・小児科領域へのアピールが足りないことがわかった。

2 協議事項

(1) 平成30年度ジェネリック医薬品安心使用促進事業について ジェネリック医薬品の理解を深める講習会について

事務局	(5 協議 2 事業内容 (2)について説明)
東海林委員 (県薬剤師会)	・講習会 60 分は長い。
大石委員 (県薬事工業協会)	・講話だけでなく、各製造所で作成している DVD を見せてはどうか。
事務局	・DVD は活用していきたい。

ジェネリック医薬品製造工場見学会について

事務局	(5 協議 2 事業内容 (3)について説明)
東海林委員 (県薬剤師会)	・対象を老人クラブや医療関係者だけにせず、幅広い世代に呼びかけてはどうか。
事務局	・市町村と連携し行っていく。
議長	・工場見学会については、ただ今のご意見を踏まえ、事務局で対応願いたい。

県基幹病院におけるジェネリック医薬品採用薬リストの作成について

事務局	(5 協議 2 事業内容 (4)について説明)
羽太委員 (県病院薬剤師会)	・先発品を意図して採用しているのか、そもそも採用がないのかを知りたい。 ・リストの効果、使用の有無の検証については、HP閲覧数が何人かわからないと検証しようがないのでは。 ・先発品の使用は、薬局よりはむしろ医者の方がこだわっている。
事務局	・HPの閲覧数は確認する。

県内医療機関におけるジェネリック医薬品使用状況調査について

事務局	(5 協議 2 事業内容 (5)について説明)
事務局	・5年前のアンケートでは、ジェネリックの使用に積極的にこだわらない医師が65%を超えていた。5年間で意識がどう変わったのか知りたい。

(2) その他

大石委員 (県薬事工業協会)	・意識が低い人に対し、どのように使用促進していくかが重要。
議長	・使用割合トップ3(沖縄、鹿児島、岩手)の県で、小児のジェネリック使用促進をどのように行っているか、調べてみるといい。
大江委員 (県歯科医師会)	Q.ジェネリックの生産体制はどうか。
大石委員 (県薬事工業協会)	A.トータルの医薬品量は変わらない。

3 その他

事務局	・いただいた意見について、対応する。個別に相談することもあるので、御協力願う。
-----	---